



## 「安全で安心な まちづくりを目指して」



市川三郷町消防団 団長 諏訪 孝吉

### 1 市川三郷町の紹介

市川三郷町は、2005（平成17）年に旧三珠町、旧市川大門町、旧六郷町の合併により誕生しました。山梨県甲府盆地の南西に位置し、南アルプスを源流とする釜無川と、秩父山系を源流とする笛吹川が合流し富士川となる左岸に位置し、町北部には御坂黒岳を源とする芦川もあり、清流と山々の緑に囲まれた風光明媚な町です。町の総面積は、75.18平方kmで、人口14,570人（令和6年4月1日現在）です。

四季折々の自然が楽しめる富士八海のひとつに数えられる「四尾連湖」。戦国時代より伝わる火薬技術による県下最大級の花火「神明の花火」、かつて「美人の肌のように美しい」という例えから幕府へ献上され肌吉紙と呼ばれた和紙産業、歌舞伎初代市川團十郎の曾祖父・堀越十郎家宣、祖父・堀越重右衛門が居を構え市川團十郎発祥の地としての歴史、生産量日本一の印章、シャインマスカットなど「葡萄」や「桃」「大塚にんじん」とうもろこしの「甘々娘（かんかんむすめ）」に代表される

農産物など、昔からの伝統技術と、それを元に開発された新技術とを融合させながら引き継がれて来た技術及び、自然・歴史・文化が私たちの誇りです。また、観光施設として認知度が高いのは、夜景100選、日本夜景遺産に認定され、温泉総選挙「絶景部門」4年連続日本一となった温泉施設「みたまの湯」があり、地域住民のほか、県内外の観光客にも人気があります。

### 2 市川三郷町消防団の紹介

2005（平成17）年10月1日に3町の合併により、条例定数512名で発足しました。その後、人口減少や少子高齢化を背景に消防団員の確保が困難になったことを受け、令和6年4月1日現在は、12分団22部条例定数370名で構成しています。

主な消防団装備については、消防ポンプ車7台、小型動力ポンプ付き積載車25台を保有し、火災等の災害に備え、昼夜を問わず、地域住民の安心、安全のため活動に取り組んでいます。



市川三郷町（航空写真）



神明の花火大会



ポンプ操法

### 3 市川三郷町消防団の活動

市川三郷町消防団は、地震、火災、風水害の災害対応や捜索活動はもちろんのこと、様々な訓練や防火啓発などに取り組んでいます。活動としては、1月の出初式での団長訓示で士気を高めることから新年の活動が始まります。3月に春の火災予防運動、4月に入退団式、8月に「神明の花火」を始めとする夏祭りの花火警備、9月に町総合防災訓練、11月に秋の火災予防運動、年末年始には火災防止の為の夜間警備（夜警）、毎月7日には機械器具点検と災害に備えた各種訓練などを行っています。また、女性消防隊員が10名おり、防火啓発活動を中心に活躍しています。そのほか、定期的に幹部会議を開催しており、幹部間での意思疎通と情報共有を図り、いつ起こるか分からない激甚化する地震や風水害に備えています。

### 4 おわりに

人口減少や少子高齢化、雇用形態の変化などが重なり、団員一人ひとりにかかる負担は大きくなる一方であり、市川三郷町消防団でも、消防団員の減少や高齢化などの問題を抱えています。

地域防災の要である消防団を維持していくためには、団員の負担軽減を図り、消防団活動の見直しを図るとともに、魅力ある消防団となるよう体制づくりが必要だと感じています。

また、「自らの地域は自らが守る」という精神に基づき、日頃から訓練や研修への参加を通して技能向上に励み、防火啓発活動に注力し、全団員が一丸となって「安全で安心なまちづくり」の為に「地域防災力の要」として精進して参ります。



出初式